

たまの湯の温泉について

約7千万年前の地層である花崗岩類を1,027mまで掘削し、花崗岩中の亀裂を流れる温泉脈を捉え、貴重な療養泉でもある天然温泉が湧出されています。たまの湯の温泉には塩分が含まれていますが、これは近年の海水が流入しているものではなく、古い年代の海水が岩盤及び地下水に接触変化することにより生成されているものと考えられ、含まれている成分から「温まりの湯」や「傷の湯」と言われています。

2022年1月18日実施の温泉成分分析（10年毎に実施）結果の概要は以下のとおりとなっております。

○ 源泉名 … 玉の浦温泉

○ 泉 温 … 27.8℃

○ 湧出量 … 100L/分

○ 泉 質 … カルシウム・ナトリウム－塩化物温泉
(高張性・中性・低温泉)

・高張性

体の細胞液より浸透圧が高いもの（溶存物質総量10g/kg以上）。温泉成分が体に吸収されます。湯あたりにはご注意ください。

・中性

中性の温泉はお肌への刺激が少なく、お肌が弱い人や敏感肌の人でも安心して入浴することが可能です。

・低温泉

25℃以上34℃未満

本源泉は効能の優れた療養泉に分類され、温泉分析書別表に一般適応症以外に『泉質別適応症』が付加される非常に恵まれた泉質です。

<一般的適応症>

筋肉若しくは関節の慢性的な痛み又はこわばり（関節リウマチ、変形性関節症、腰痛症、神経痛、五十肩、打撲、捻挫などの慢性期）、運動麻痺における筋肉のこわばり、冷え性、末梢循環障害、胃腸機能の低下（胃がもたれる、腸にガスがたまるなど）、軽症高血圧、耐糖能異常（糖尿病）、軽い高コレステロール血症、軽い喘息又は肺気腫、痔の痛み、自律神経不安定症、ストレスによる諸症状、（睡眠障害、うつ状態など）、病後回復期、疲労回復、健康増進

■ 塩化物泉の特徴

血液の循環を促進し、殺菌力が強く、痛みを和らげる鎮静効果がある。

浴後に皮膚に塩分が付着して汗の蒸発を防ぐため、保温効果が良く「熱の湯」と呼ばれています。

<泉質別適応症>

きりきず、末梢循環障害、冷え性、うつ状態、皮膚乾燥症



瀬戸内温泉

たまの湯

